

高浜おまん和祭り保存会の方に 聞きました!

保存会とは

高浜のおまん和祭りを保存・継承していくために、高浜おまん和祭り保存会を平成17年に立ち上げました。保存会メンバーは、理事・役員が90人ほどで、お祭りでは、保存会の事業部が、高浜地区氏子委員会の依頼により、シャトルバスの運行、写真コンテスト、ポスター製作、仮設トイレや場内のごみ箱の設置・撤去、広域宣伝など、裏方として祭礼実行の支援をしています。

時代にあわせて

昔からのしきたりを守ることも大事ですし、伝統を変えることは難しいですが、馬場へ女性は絶対に立ち入れなかったのが、平成15年ごろから女の子も馬場へ入れるようになりまし。今では、小若衆(小・中学生の参加者)も女の子が増え、時代の流れを感じますね。

お祭りの見どころ

見どころは、駆け馬はいくらでもなく、早朝6時ごろからですが、「ア」という春日神社へ向けて、洲崎公園(旧境内)から各町の馬目付、若衆頭、若衆、小若衆と馬が行列で市内のまち並みを練り歩くようすや、逆に「ヒケ」という初日は八剣社からもらった神火のともされた高い提灯を先頭に各町へ帰る行列も見ごたえがあります。

高浜小学校の前などで「オクリ」という各町との別れのあいさつが行われますが、互いに祭りの成功のお礼をかわし合い、何とも言えない雰囲気になります。ぜひ、駆け馬以外も見にきてください。

今後に向けて

高浜市無形民俗文化財に指定されており、このおまん和祭りが末代まで続くようにしていきたいですね。高浜の財産ですから。

(右) 書記 神谷安直さん(青木町)
(中) 会計 都築冨也さん(沢渡町)
(左) 書記 浅岡菊雄さん(稗田町)



▲昭和39年ごろの馬場

▶昭和39年ごろの「アオシ」



覚えてのますか?
昔のおまん和風景



▲小若衆(こわかいしゅう)が馬と走る姿もほほえましい。



▲チャラボコの音色に、血が騒ぐ市民も多い。



▲神馬町を先頭に各町が宿へ帰る「ヒケ」の途中、分岐点で挨拶を交す「オクリ」